

その3 伝統的住宅地域における家庭清掃（備中吹屋の場合）

大谷女子短大 ○藤本佳子 広島女学院大短大 富士田亮子

目的 ^{註)}前報に引き続き、伝統的住宅地域における家庭内清掃の実態を通して、家庭内清掃の変容の様子や要因及び住宅や住宅地にふさわしい合理的な清掃方法を知り、その中から現在の住宅や住生活にふさわしい清掃方法を考えようとするものである。

方法 江戸末期にはベンガラ、その後銅山の町として栄えた吹屋の伝統的景観を残す住宅を対象にし、①住宅の平面図採集 ②住戸内観察 ③主婦に対して面接、聞き取り調査を行った。清掃内容は日常清掃の方法、場所、人、所要時間、時間帯、清掃用具など特別清掃方法及び清掃についての考え方などについてである。調査時期は、1986年5月。調査対象家庭6件である。

註) (社)日本家政学会第38回大会研究発表要旨集 P.109

結果 ①毎日行なわれているのは汚れが目立ちやすい便所を中心に水拭きである。特徴的なのは玄関の格子を水拭きで、庭掃除をこまめに行なっている。家族がよく使う台所、茶間も毎日する所と、週1～2回の所がある。毎日するのは大家族の家庭で、子供がいるが後者は老夫婦などの老人世帯である。②掃除の時間帯は8時頃から9時、9時から11時頃があてられるが、日中にやっていない所もある。商家が多く仕事の都合でやりくりしているようである。③床上用の清掃用具は掃除機、箒、はたき、雑巾などであり、その置場所は各家庭により差が見られる。使う場所の近くに置いている場合が多い。④掃除を主に行っているのは主婦である。戦前までは使用人が中心。⑤特別清掃は大掃除であるが、畳上げ、床下清掃を40年代まで行なっていたが現在は行なっていない。⑥家庭清掃はなるべくしないようにという考え方もあり、家族のみで行なっている。